

第 113 回 地区内中小企業景気動向調査結果

(平成 29 年 1～3 月期実績・平成 29 年 4～6 月期見通し)

1. 調 査 時 点 平成 29 年 3 月 1 日～3 月 7 日
2. 調査対象企業数 173 社中回答 173 社 回答率 100.0%

区 分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率 (%)
製 造 業	従業員 300 人以下	38	38	100.0
建 設 業	〃	43	43	100.0
卸 売 業	従業員 100 人以下	7	7	100.0
小 売 業	従業員 50 人以下	54	54	100.0
サービス業	〃	31	31	100.0
合 計		173	173	100.0

3. 調 査 方 法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域（新冠町～広尾町）内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

4. 分 析 方 法

各質問項目で「増加（上昇）」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少（下降）」したと回答した企業の全体に占める構成比との差（判断指数・D I 値）を中心にして分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫 地域・中小企業研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

5. お問い合わせ先

日高信用金庫 業務部地域貢献課（TEL. 0146-22-4100、内線 611）
〒057-0013 浦河郡浦河町大通 2 丁目 31 番地 2

全業種総合 173 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 概 況

今期（平成29年1～3月期）の業況判断D.I.は△33.5と、前期（平成28年10～12月期）比13.9ポイント悪化となった。前年（△35.2）比では1.7ポイント上昇、前期（平成28年10～12月期）調査時点での今期（平成29年1～3月期）見通し（△32.9）を0.6ポイント下回る水準となった。業種別には、製造△34.1（前期△23.8）、建設△18.6（同0.0）、卸売△57.2（同△28.6）、小売△37.0（同△33.4）、サービス△42.0（同△16.2）となった。

売上額判断D. I. は△37.5 と前期比 32.9 ポイント下降、収益判断D. I. は△34.8 と前期比 25.0 ポイント下降した。

来期（平成 29 年 4～6 月期）の予想業況判断 D. I. は△13.8 と、今期実績比 19.7 ポイントの上昇見通しとなった。業種別にみると、製造△15.8、建設 0.0、卸売△28.6、小売△16.6、サービス△22.6 と来期を見通している。

【業種別天気図】

時 期 業 種	地 区 内				北 海 道	全 国
	28年 7月～9月	28年 10月～12月	29年 1月～3月	29年 4月～6月 見通し	当 期	当 期
総 合						
製 造 業						
建 設 業						
卸 売 業						
小 売 業						
サービスマ業						

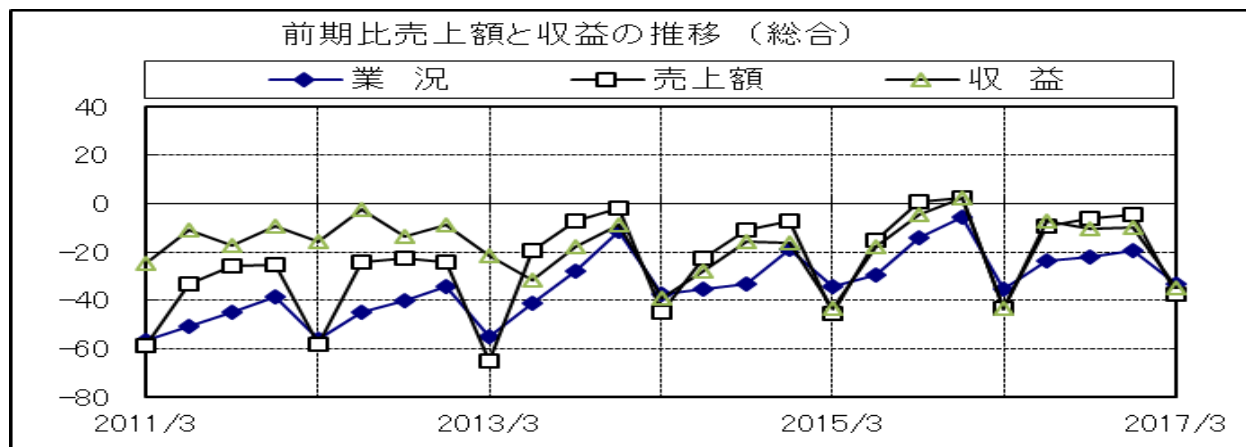
好調 ←
→ 低調

この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。

□ 景 況

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業 況	-22.0	-19.6	-33.5	-13.8
売上額	-6.3	-4.6	-37.5	5.3
収 益	-10.4	-9.8	-34.8	6.4

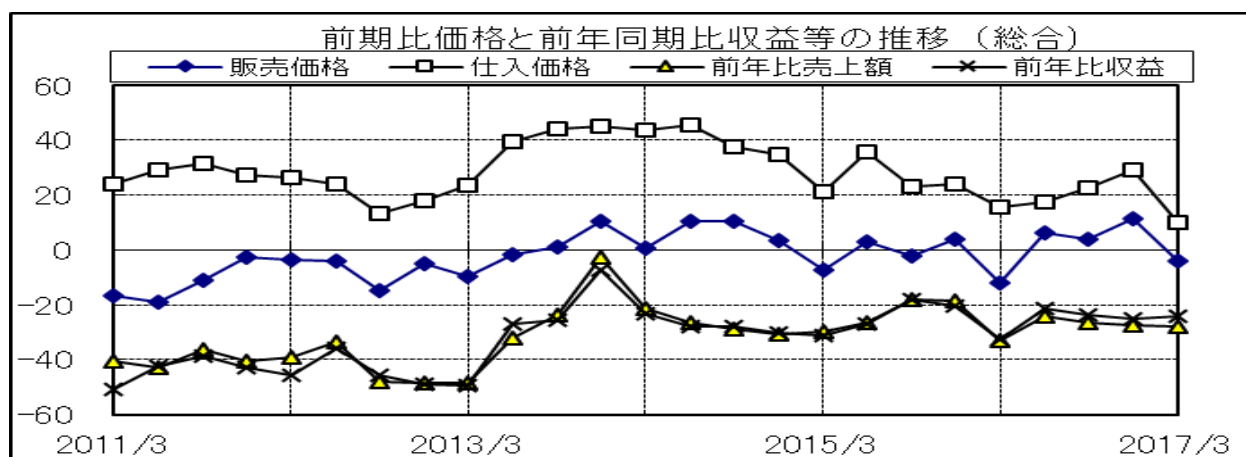
全業種総合の今期の業況判断 D. I. は△33.5 で、前期比 13.9 ポイント下降した。地区別の D. I. は、高い順に、えりも、静内、浦河、広尾、様似、三石となった。前年（△35.2）比では 1.7 ポイント上昇した。売上額判断 D. I. は△37.5 で前期比 32.9 ポイント下降、収益判断 D. I. は△34.8 で前期比 25.0 ポイント下降した。



□ 価格面、前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
販売価格	4.1	11.6	-4.0	4.1
仕入価格	22.5	29.4	9.8	14.5

販売価格判断 D. I. は△4.0 で、前期比 15.6 ポイント下降、前年（△12.2）比では 8.2 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は 9.8 で、前期比 19.6 ポイント下降、前年（15.6）比でも 5.8 ポイント下降した。販売価格を業種別にみるとサービス業で上昇し、製造業、建設業、卸売業、小売業は下降した。仕入価格では、全業種が下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	-2.3	-3.4	-11.5	-6.3
人手状況	-22.0	-19.6	-10.5	-15.0

残業時間判断 D. I. は△11.5 と、前期比 8.1 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増加した。

人手過不足判断 D. I. は△10.5 と、前期比 9.1 ポイント上昇し、人手不足感が弱まった。

□ 設備投資の動き

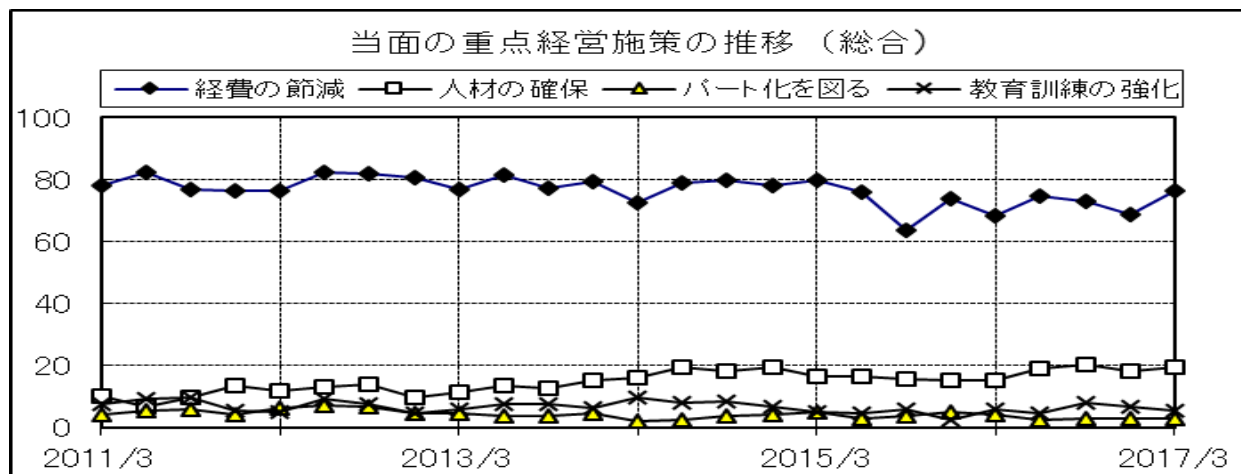
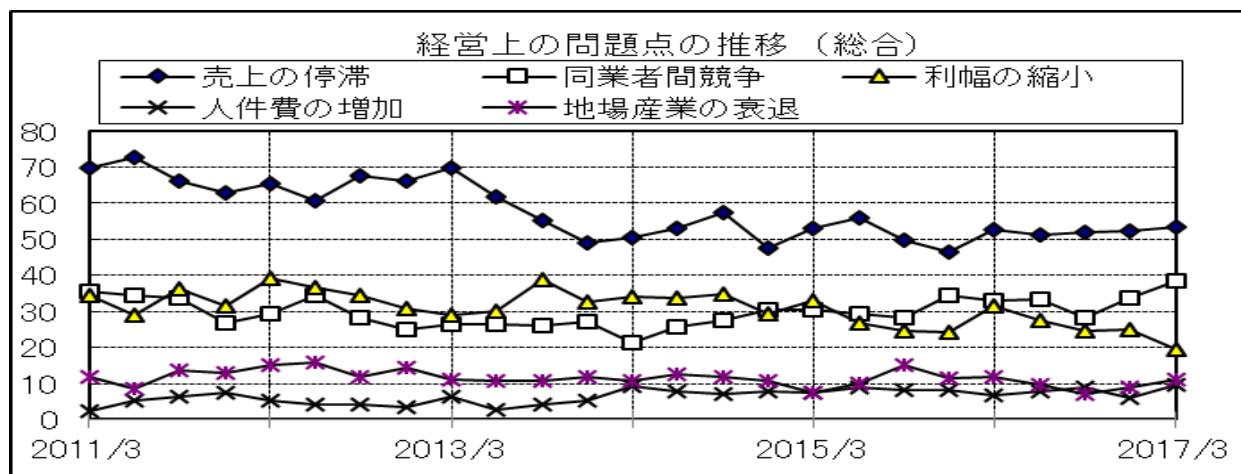
設備投資の充足感を示すD.I.は△9.2で、前期（△13.3）比4.1ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は14.5%で、前期（12.7）比1.8ポイント上昇した。設備投資は、前期22社に対し、25社の実施となった。来期の設備投資は、17社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」が53.3%で最も多く、次に「同業者との競争」38.5%、「利幅の縮小」19.5%、「人手不足」13.6%、「地場産業の衰退」11.2%、「人件費の増加」9.5%、「天候不順」7.7%、と続いた。

重点経営施策では、「経費の節減」が76.3%で突出している。次に「人材の確保」19.4%、「教育訓練を強化」が5.6%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D.I.は△13.8と、今期比19.7ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D.I.は5.3と、今期比42.8ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D.I.は6.4と、今期比41.2ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D.I.は4.1と、今期比8.1ポイントの上昇を見通している。

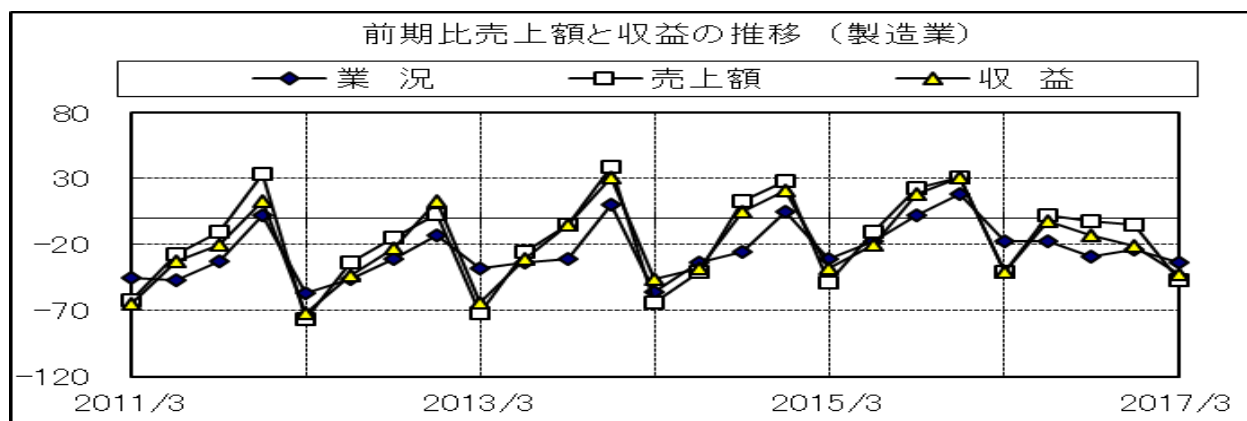
予想仕入価格判断D.I.は14.5と、今期比4.7ポイントの上昇を見通している。

製 造 業 38 企 業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業 況	-29.0	-23.8	-34.1	-15.8
売上額	-2.6	-5.3	-47.3	-0.1
収 益	-13.1	-21.0	-42.2	2.6

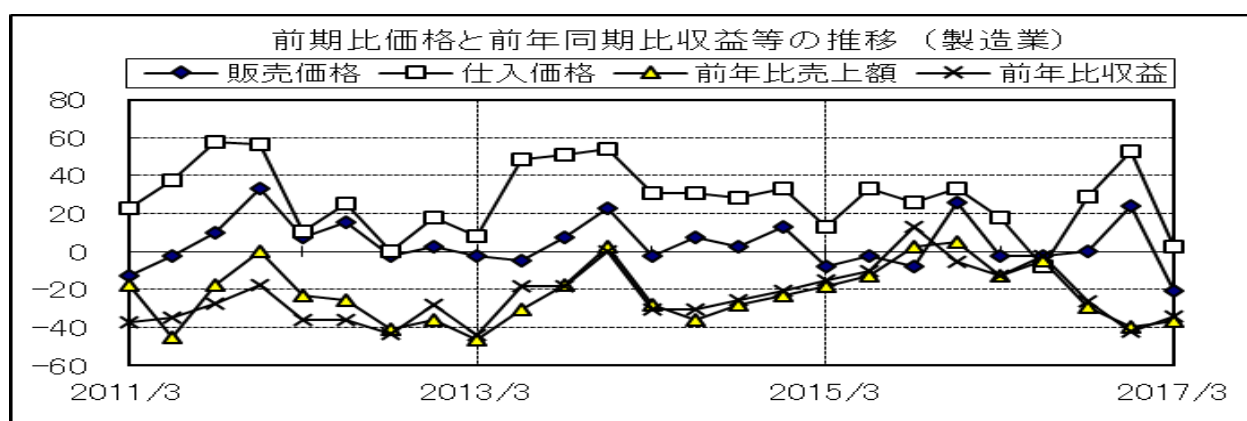
今期の業況判断 D. I. は $\Delta 34.1$ で前期比 10.3 ポイント下降した。地区別の D. I. は、高い順に浦河、様似、三石、広尾と続き、静内・えりもが同率で最も低い水準となった。前年 ($\Delta 17.9$) 比では 16.2 ポイント下降した。売上額判断 D. I. は $\Delta 47.3$ で前期比 42.0 ポイント、収益判断 D. I. は $\Delta 42.2$ で前期比 21.2 ポイントそれぞれ下降した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
販売価格	0.0	23.7	-21.0	-5.2
仕入価格	28.9	52.7	2.7	7.9

販売価格判断 D. I. は $\Delta 21.0$ で、前期比 44.7 ポイント下降、前年 ($\Delta 2.6$) 比でも 18.4 ポイントの下降となった。仕入価格判断 D. I. は 2.7 で、前期比 50.0 ポイント下降、前年 ($\Delta 17.9$) 比でも 15.2 ポイントの下降となった。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	-15.8	-2.7	-15.8	-2.6
人手状況	-15.8	-26.4	-18.4	-18.4

残業時間判断 D. I. は $\Delta 15.8$ で、前期比 13.1 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増加した。

人手過不足判断 D. I. は $\Delta 18.4$ で前期比 8.0 ポイント上昇し、人手不足感が弱まった。

□ 設備投資の動き

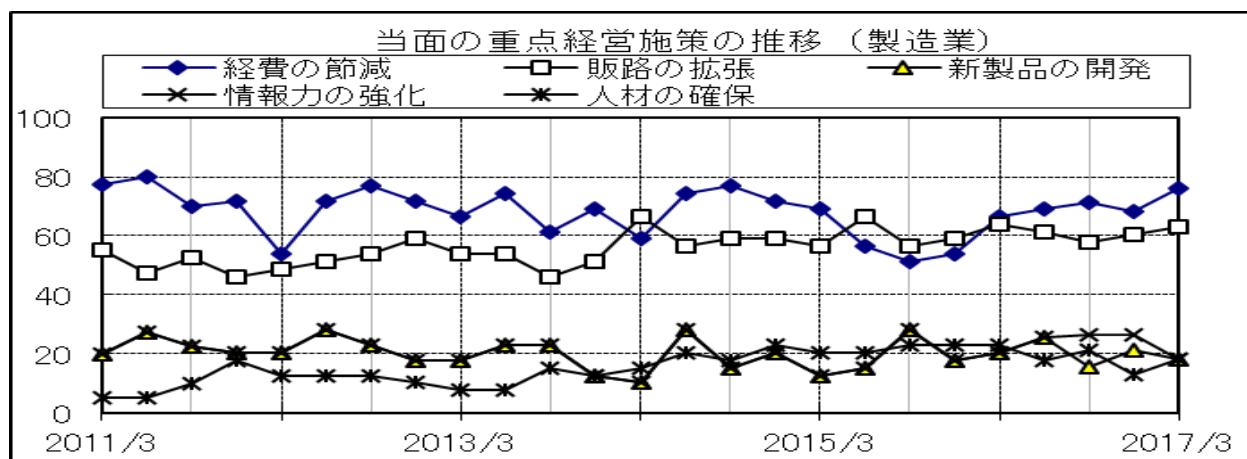
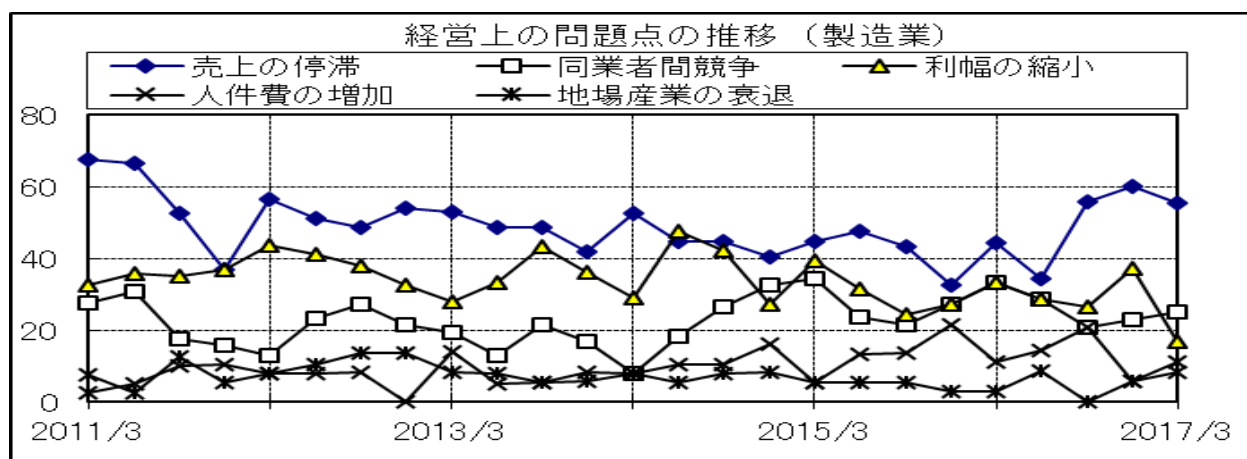
設備投資の充足感を示すD.I.は△10.5で、前期（△21.1）比10.6ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は21.1で、前期（15.8）比5.3ポイント上昇した。設備投資は、前期6社に対し、8社の実施となった。来期の設備投資は、6社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」55.6%、「原材料高」47.2%、「同業者との競合」25.0%、「工場機械の老朽化」・「天候の不順」が同率の19.4%、次に「利幅の縮小」16.7%、「人手不足」13.9%、「大手企業との競合」・「人件費の増加」が同率の11.1%と続いた。

重点経営施策では、「経費の節減」76.3%、「販路を広げる」63.2%、「情報力を強化する」・「新製品の開発」・「人材の確保」が同率の18.4%、「機械化の促進」10.5%と続いた。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D.I.は△15.8と、今期比18.3ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D.I.は△0.1と、今期比47.2ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D.I.は2.6と、今期比44.8ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D.I.は△5.2と、今期比15.8ポイントの上昇を見通している。

予想仕入価格判断D.I.は7.9と、今期比5.2ポイントの上昇を見通している。